特別講演・パネルディスカッション

ポスト・オリエンタリズムの論客と迫る アメリカ・イラン関係

2020 年 2 月 16 日(日)

14:00 ~ 17:00(開場 13:30)

上智大学四谷キャンパス 2 号館 1702

使用言語 ： 英語 (日英逐次通訳あり)

ハミッド・ダバシ

定員 120 名
(事前申込不要・先着順)

講演者紹介

アメリカ、コロンビア大学教授。1951 年にイラン南西部のアフヴァーズに生まれる。イラン・イスラームの研究を基本としながら、広く中東地域の歴史・政治・文化について研究活動に従事。2000 年代に入ってからは、特に旺盛な執筆活動を続け、中東諸国の社会変動やアメリカの対中東政策についての評論を多く発信してきた。エドワード・サイード亡き後（2003 年没)、中東出身の越境的在米知識人の論客として、その発言は常に注目されてきた。2008 年に上梓した『ポスト・オリエンタリズム』は、サイードの思想やポストコロニアリズムを超えて中東 - 西洋関係を問い直す新古典として呼び声が高い。

こちらからプログラムの詳細をダウンロードできます。

共催：現代中東地域研究国立民族学博物館拠点
上智大学研究機構イスラーム研究センター拠点
JSPS 科研費（18K18270）

科研費 KAKENHI